



株式会社クロス・マーケティンググループ

2025年6月期 上期決算補足資料

2025年2月14日

CONTENTS

- 1** 2025年6月期 上期決算概要
- 2** トピックス
- 3** 2025年6月期 業績予想及び配当計画
- 4** 参考データ

Summary

1

- **上期累計 売上高147.5億円(18%増)、営業利益13.5億円(45%増)。**
概ね計画通りの上期業績
- **業績好調継続と新規連結効果により、上期売上高が過去最高を更新**

Summary

2

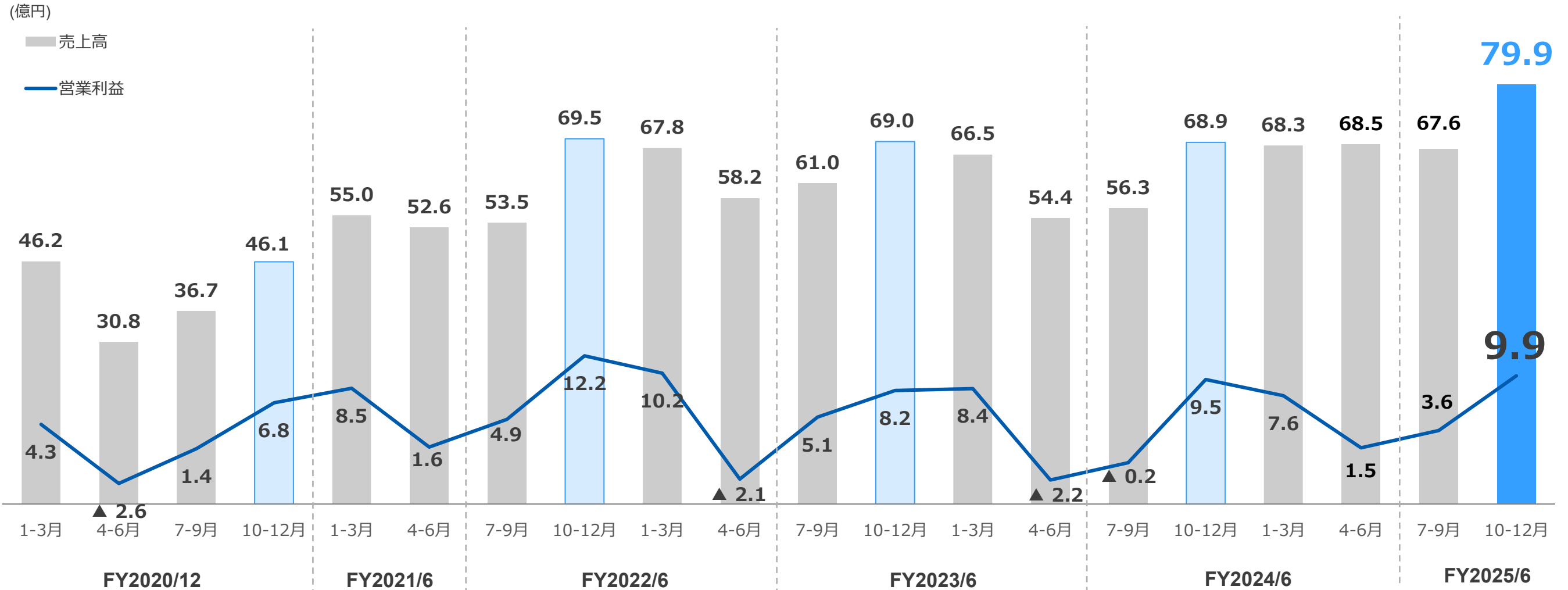
- **デジタルマーケティング事業**：既存事業堅調と新規連結効果により増収増益
- **リサーチ2事業(データマーケティング、インサイト)**：国内はオンラインリサーチ好調、海外は米英回復が寄与

Summary

3

- **25/6期 通期業績計画に変更なし**
- **売上高300億円、営業利益30億円を目指す**

25/6期2Q：10-12月期として過去最高の売上高を更新 季節性はあるものの、収益基盤が着実に拡大



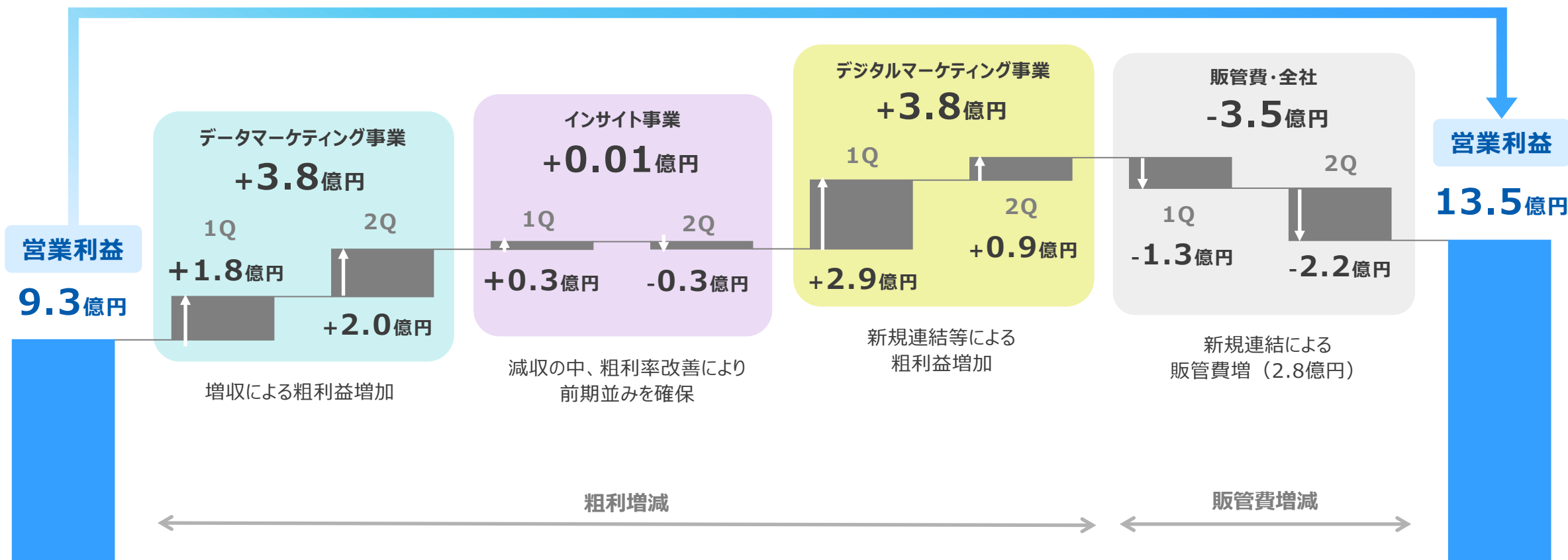
1 2025年6月期 上期決算概要

デジタルマーケティング、データマーケティングが増収・増益をけん引
増収と販管費の効率化により、営業利益は大幅増

	25/6期						
	(億円)	1Q (7-9月)	YoY 成長率	2Q (10-12月)	YoY 成長率	上期累計	YoY 成長率
売上高		67.6	+20%	79.9	+16%	147.5	+18%
デジタルマーケティング事業		30.8	+40%	32.8	+13%	63.7	+25%
データマーケティング事業		23.0	+17%	28.0	+35%	50.9	+26%
インサイト事業		13.8	-6%	19.1	+0.3%	33.0	-2%
売上総利益 (売上総利益率)		25.2 (37.3%)	+25% (+1.4pt)	31.8 (39.8%)	+9% (-2.6pt)	57.0 (38.6%)	+15% (-0.8pt)
販管費 (売上高販管費比率)		21.7 (32.1%)	+6% (-4.2pt)	21.9 (27.4%)	+11% (-1.2pt)	43.5 (29.5%)	+9% (-2.5%)
営業利益 (営業利益率)		3.6 (5.3%)	黒転 (-)	9.9 (12.4%)	+5% (-1.4pt)	13.5 (9.1%)	+45% (+1.7pt)

データマーケティングの好調、デジタルマーケティングの新規連結等による粗利益増加で
新規連結による販管費増を吸収し、営業利益が増加

営業利益：4.2億円増



2024年6月期 上期

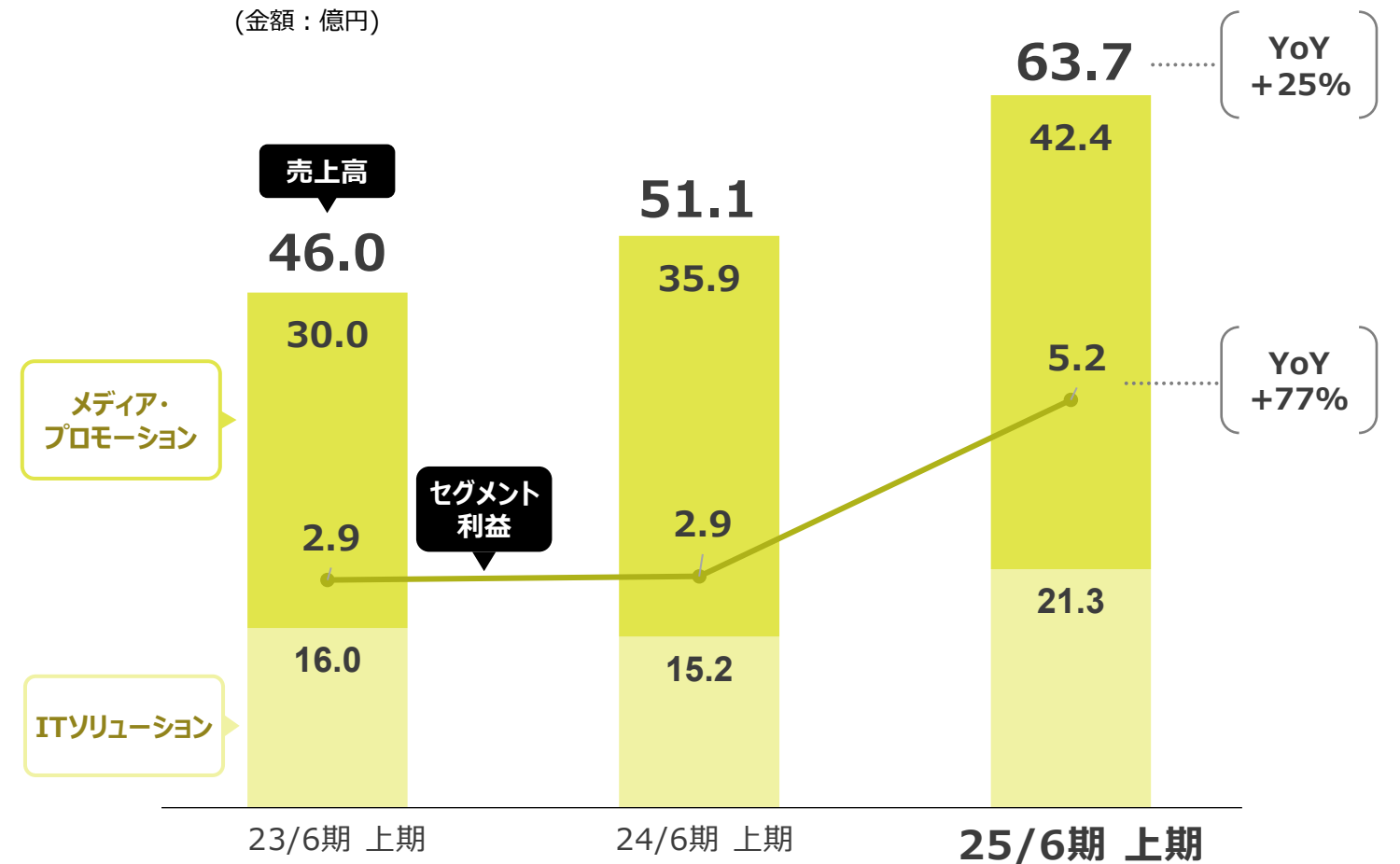
2025年6月期 上期

売上高25%増、セグメント利益77%増 高成長事業がけん引、新規連結効果も加わる

ハイライト

- ・メディア・プロモーション領域：18%増収。インフルエンサーマーケティングなどの高成長領域に加え、新規連結のトラフィックス*、パスクリエ*が貢献
- ・ITソリューション領域：40%増収。新規連結のCRI*が大きく貢献
- ・セグメント利益が大幅拡大：増収に伴う粗利増加で、新規連結による販管費増を吸収

* (株)トラフィックス：イベント運営、アウトソーシング、クリエイティブ制作等を行う。2024年1月連結開始
 (株)パスクリエ：主にEC領域のサードパーティロジスティクス等を行う。2024年5月連結開始
 (株)CRI（クリエイティブインスティテュート）：ディレクター・エンジニアの派遣、広告制作等を行う。2024年4月連結開始



売上高26%増、セグメント利益45%増 国内オンラインリサーチ好調継続、海外が大幅回復

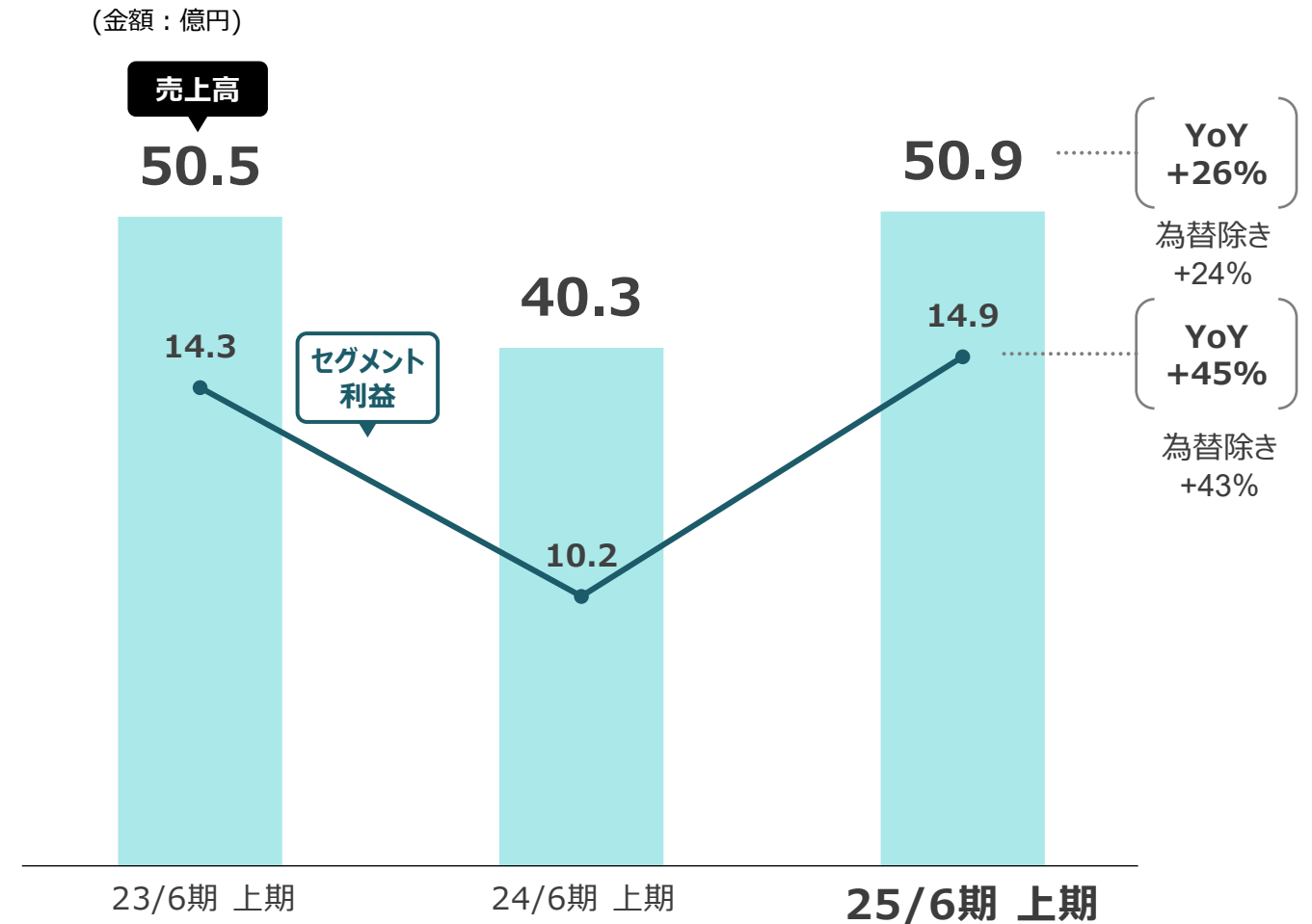
ハイライト

- ・国内はyoy+11%。オンラインリサーチが好調。業種別では通信・エンタメ・自動車・広告代理店等がけん引
- ・海外はyoy+69%。主力の北米が大幅回復
- ・増収に伴う粗利益増加によりセグメント利益はyoy+45%と伸長

為替影響

- ・為替変動*1で売上+1.9億円、利益影響は軽微

*1 2024年6月期2Qの実績為替レートとの比較



売上高2%減、セグメント利益1%減 1Qの国内医療領域苦戦が主因ながら、2Q(10-12月)は復調トレンド

ハイライト

- ・ 海外は4%増収。英国が回復、食品関連が伸長
- ・ 値引き抑制等の原価改善により、粗利率は改善

ローライト

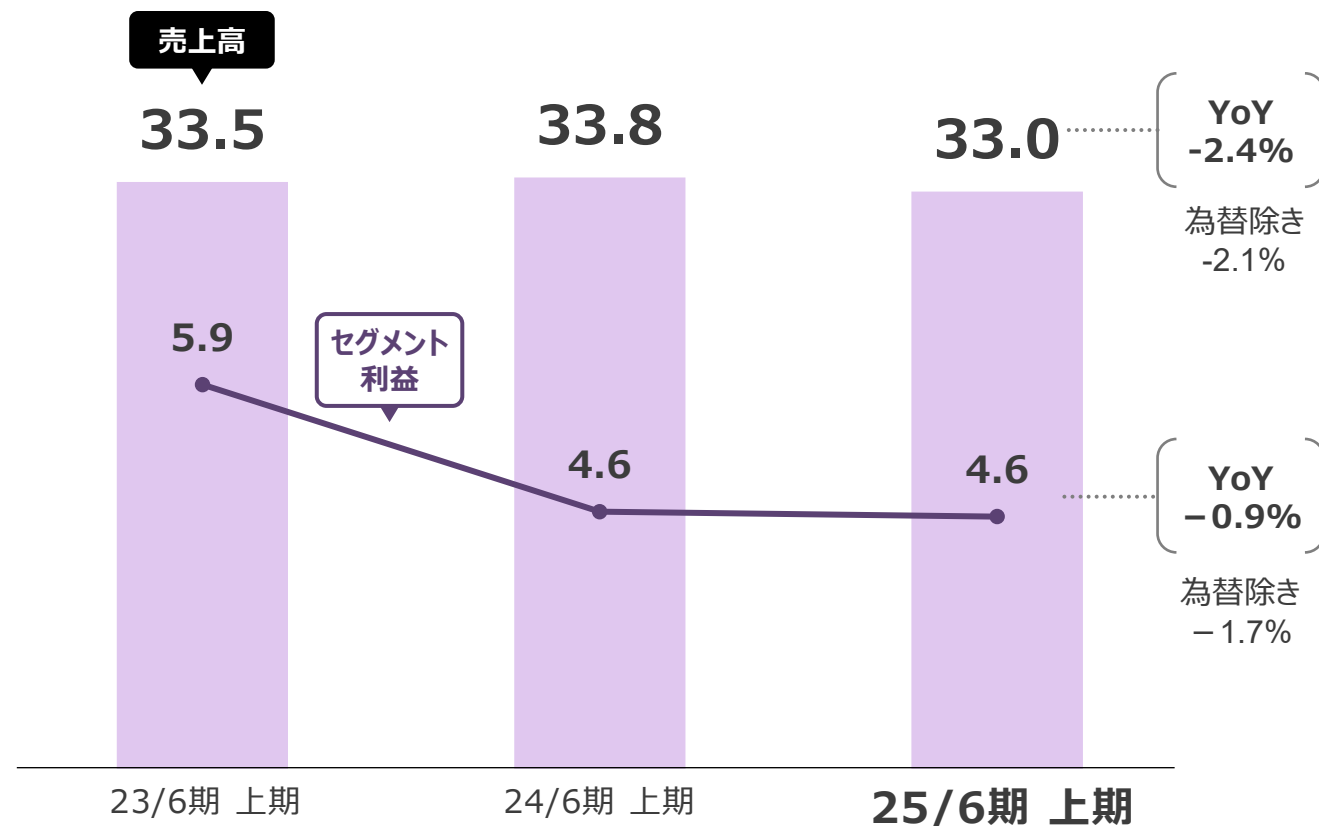
- ・ 国内が4%減収。主に1Qの医療・ヘルスケア領域のリサーチが苦戦。但し、2Qは増収に転換

為替影響

- ・ 為替変動^{*1}で売上+0.5億円、利益影響は軽微

*1 2024年6月期2Qの実績為替レートとの比較

(金額：億円)



海外事業合計で42%増収 北米・英国が大きく回復

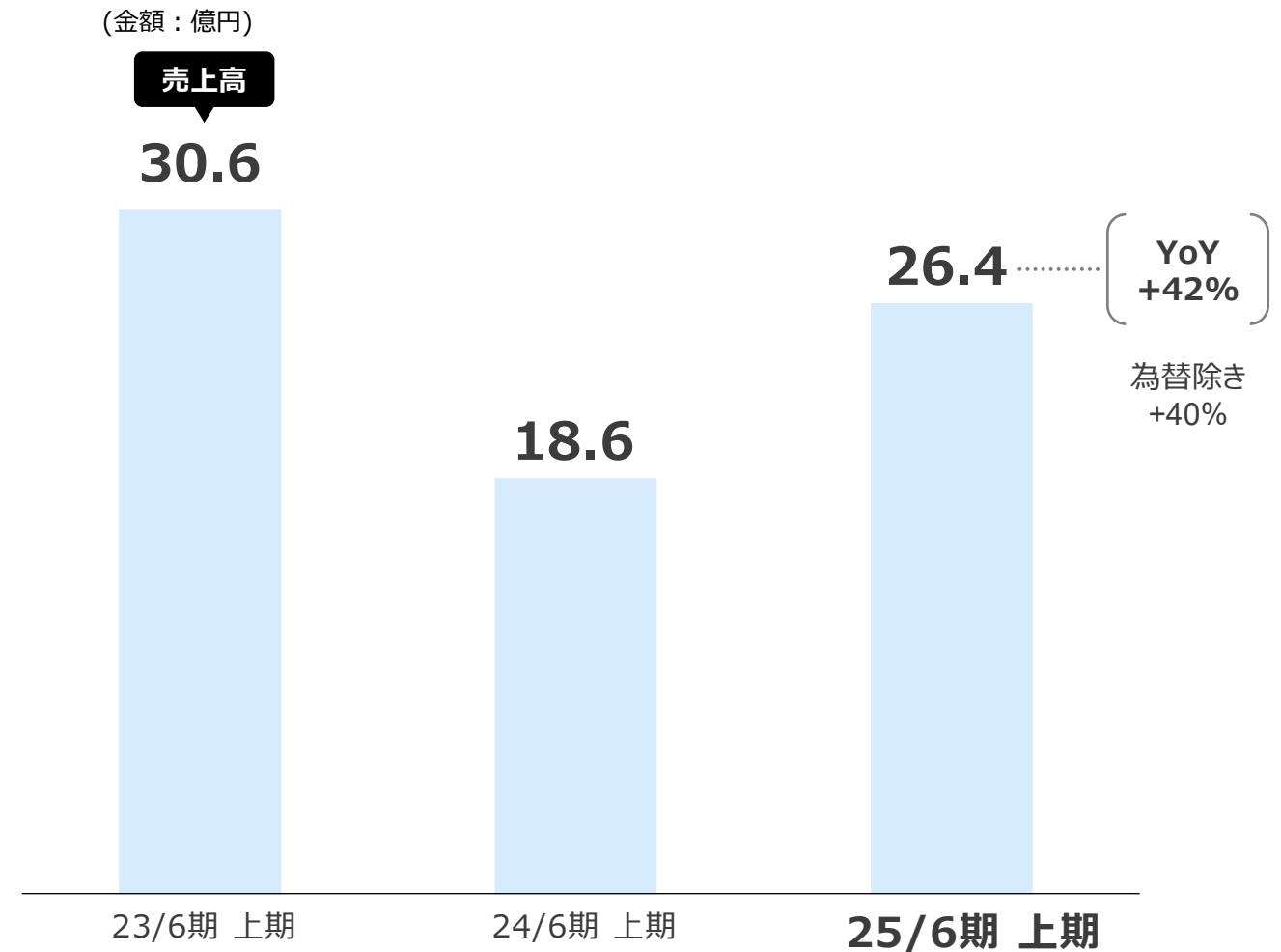
ハイライト

- ・北米、英国の回復持続。調査会社、情報通信、食品などが伸長
- ・インドも成長。飲料、調査会社などが伸長

為替影響

- ・為替影響*1は海外合計で売上高+2.4億円

*1 2024年6月期2Qの実績為替レートとの比較



2 トピックス

連結子会社クロス・マーケティングと連結子会社REECHの協業例

A社様（化粧品・トイレタリー業種）



経緯

クロス・マーケティングで市場調査を発注いただいているお客様



課題

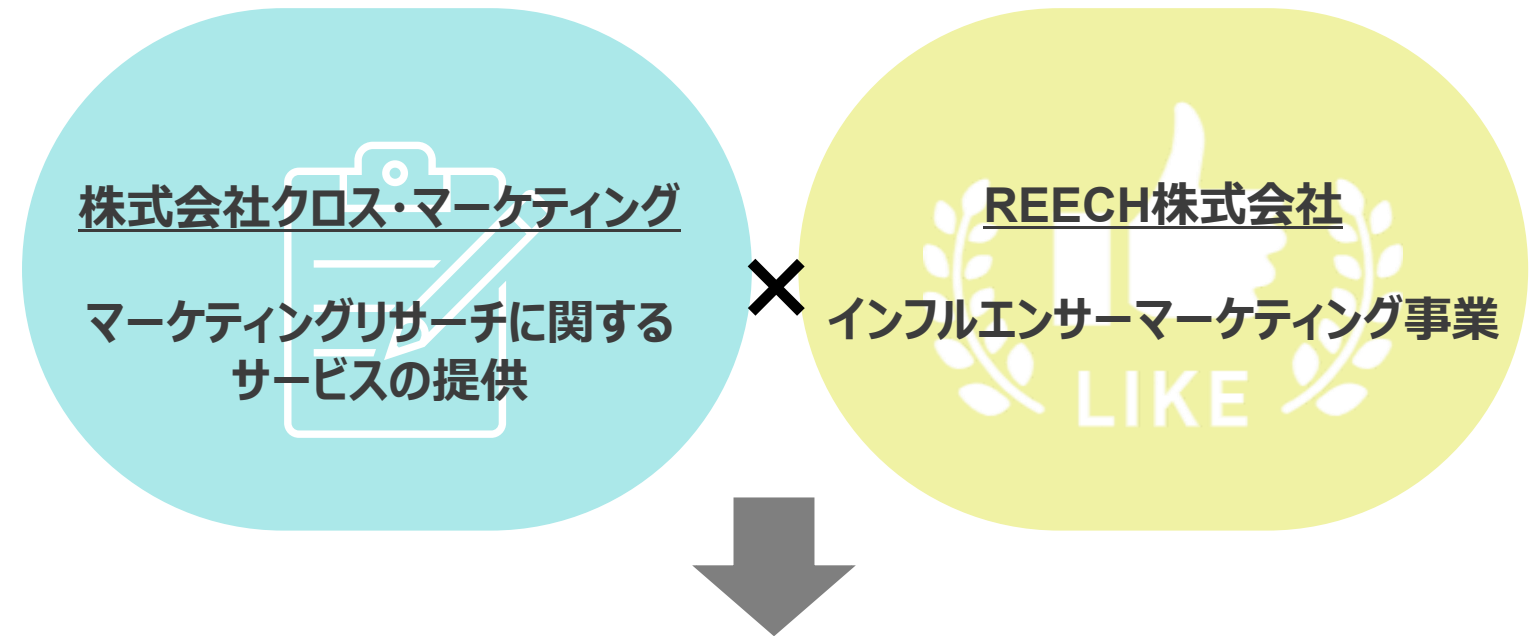
メンズメイクがテーマのリサーチをしたいが、クロス・マーケティングのモニターのみでは条件が細かく実施が難しい



対策

インフルエンサーデータベースを持つREECHと協業することで条件に該当するモニターをリクルート

➡お客様が求める細かい条件に対応したリサーチが可能になり受注



マーケティングリサーチとインフルエンサーマーケティング支援を掛け合わせることで、よりきめ細かなリサーチニーズに対応することが可能に！

連結子会社クロス・マーケティングと連結子会社クロス・プロップワークスの協業例

B社様（情報通信業）



クロス・プロップワークスでセールス代行支援を行っているお客様より課題の相談を受ける



自社ツールの販売をもう一段加速したい
そのための課題がどこにあるか分からない



事業再構築に向けて、リサーチで市場の声を集める

➡リサーチ + 実施後の事業再構築支援を一貫してできることがリサーチ競合他社との差別化につながり受注



株式会社クロス・マーケティング

マーケティングリサーチに関するサービスの提供

株式会社クロス・プロップワークス

各種データの入力・加工・集計や
チェック、システム品質検証、
サイト運用等のBPO事業



マーケティングリサーチとセールス支援を掛け合わせることで、商品の企画・開発から販売まで一貫したサポートが可能に！

連結子会社エクスクリエと北海道伊達市が「地域活性化起業人」による業務協定を締結

概要

連結子会社エクスクリエが北海道伊達市へ地域活性化起業人を派遣する業務協定

任期：2025年1月14日から1年間 *最大3年間の延長あり

配属先：企画財政部企画課企画調整係

業務内容：ふるさと納税業務を通じた地域独自の魅力及び価値向上



地域活性化企業人とは

地域活性化起業人とは、総務省が推進する企業人材派遣制度で、地方公共団体が三大都市圏に所在する民間企業等の社員を一定期間受け入れる制度です。

地方自治体が取組む地域課題に対し、社員の専門的なノウハウや知見を活かしながら即戦力人材として業務に従事することで、地域活性化を図る取り組みとなります。



自己株式取得を実施。3.7億円、発行済み株式数の3%を取得し終了

目的

株主還元策の一環として、また機動的な資本政策の遂行やインセンティブプランの多様化を可能にすることを目的として、自己株式の取得を行う。

取得総数

567,900株（上限700,000株）

* 発行済株式総数（自己株式を除く）に対する割合 3.0%

取得総額

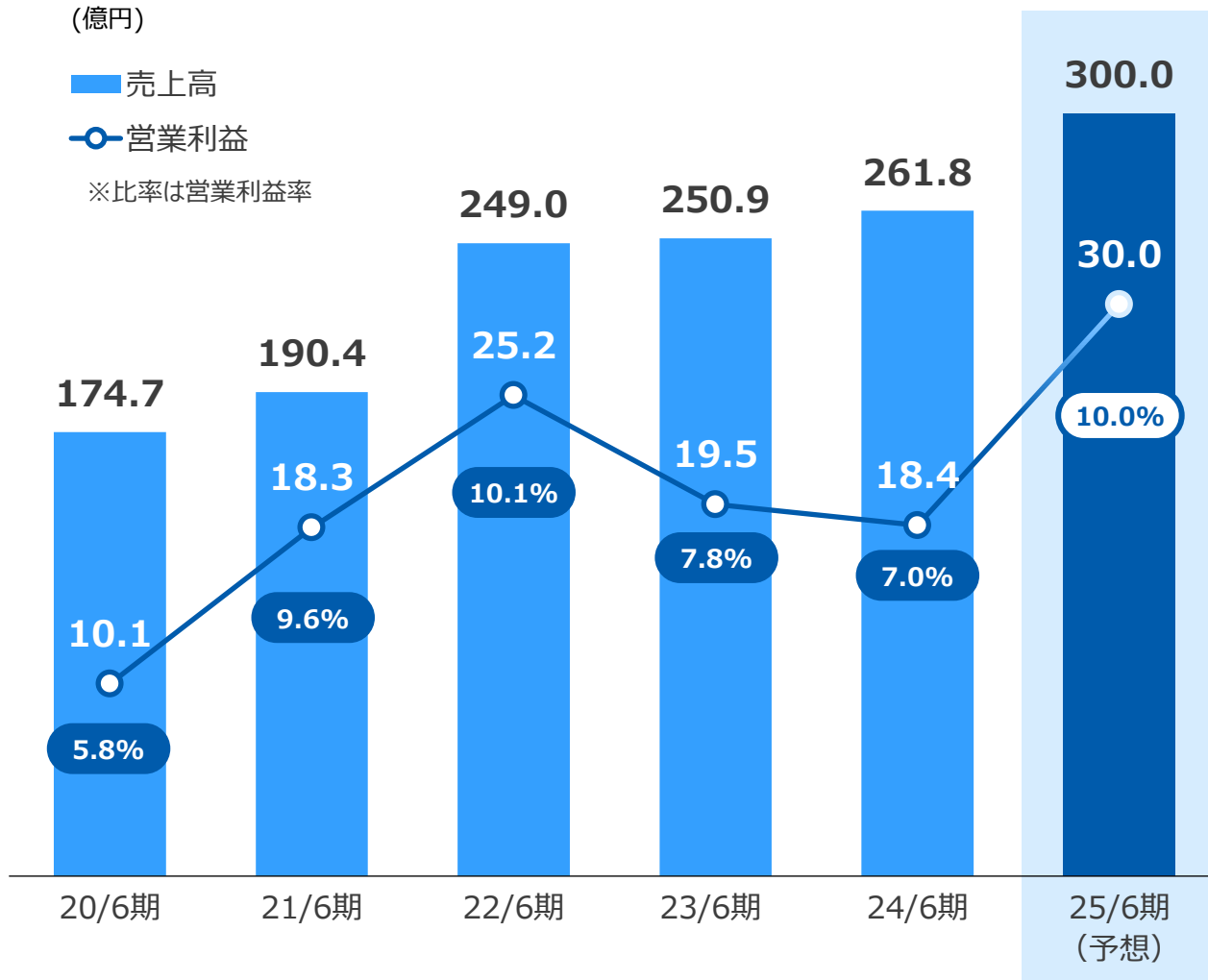
372,310,800円（上限400,000,000円）

取得期間

2024年8月13日～2025年2月12日

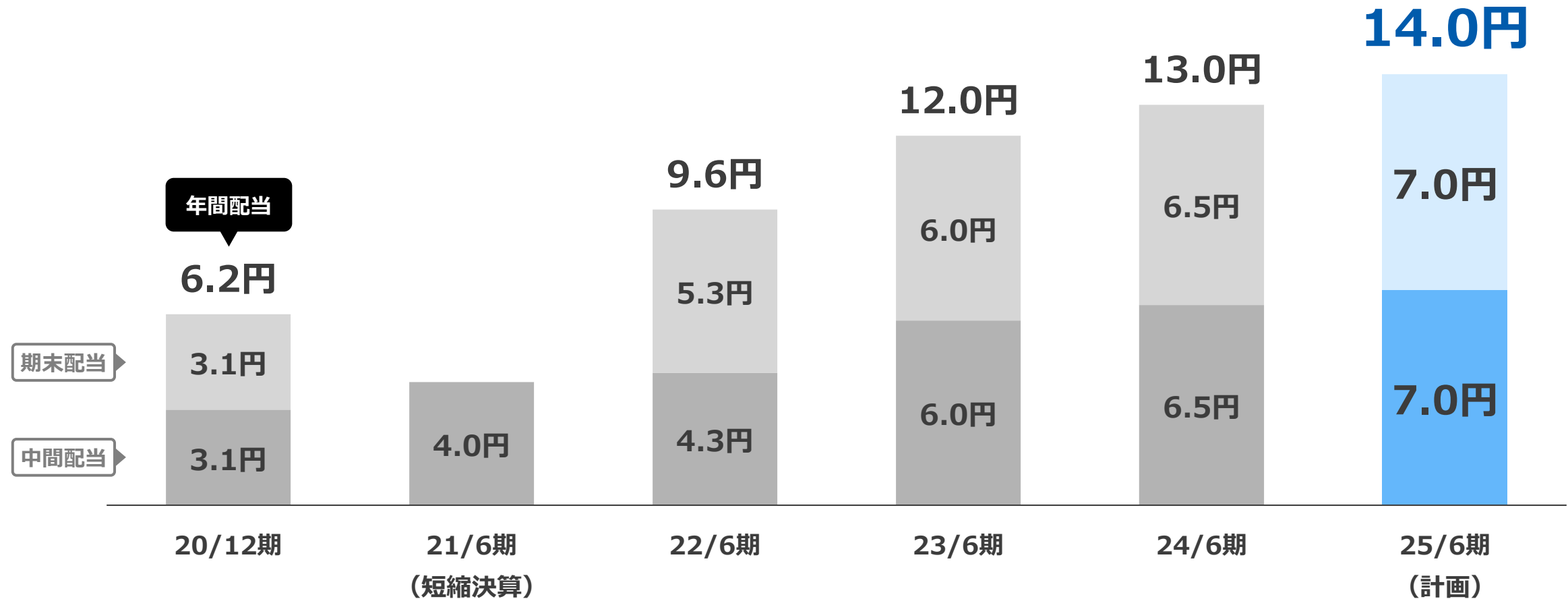
3 2025年6月期 業績予想及び配当計画

中期経営計画・最終年度の業績目標に変更無し
 売上高300億円(15%増)・営業利益30億円(63%増)を目指す



(億円)	24/6期 実績	25/6期 予想	YoY
売上高	261.8	300.0	+15%
デジタル マーケティング	106.6	130.0	+22%
データ マーケティング	88.1	100.0	+14%
インサイト	67.1	70.0	+4%
営業利益	18.4	30.0	+63%
経常利益	19.1	29.0	+52%
親会社株主に帰属する 当期純利益	11.9	18.0	+51%
EPS	62.1	93.6	+51%
一株当たり配当 (円)	13.0	14.0	+1.0

配当方針：配当性向15%前後を目安とした継続的な増配
 25/6期通期では**14.0円**（中間7.0円、期末7.0円）



4

参考データ

エクセル形式の **Fact Sheet** は当社IRサイト(www.cm-group.co.jp/ir)内の[こちら](#)に掲載しております。
どうぞご利用ください。

(億円)	24/6期 上期	25/6期 上期	前年同期比 増減率
売上高	125.1	147.5	+18%
売上総利益	49.4	57.0	+15%
(売上総利益率)	(39.5%)	(38.6%)	(-0.8pt)
販売費 及び 一般管理費	40.1	43.5	+9%
(売上高販管費比率)	(32.0%)	(29.5%)	(-2.5pt)
営業利益	9.3	13.5	+45%
(営業利益率)	(7.4%)	(9.1%)	(+1.7pt)
経常利益	8.8	13.0	+48%
特別損益	0.0	-0.1	-
法人税等	3.0	5.1	+68%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	5.8	7.8	+35%

- 1 **売上高が大幅増**
国内外の消費者調査、プロモーションが好調。新規連結効果も加わった
- 2 **売上総利益が増加**
増収に伴う増加
- 3 **販管費を効率化**
費用効率化により、販管費の増加は売上高の伸び以下に

(億円)	2024年6月末	2024年12月末	増減	
流動資産	127.6	130.9	+3.3	
現金及び預金	73.8	64.8	-9.0	① 現預金は64.8億円 借入金返済等により期末比で減少
受取手形及び売掛金	38.5	47.7	+9.2	
その他	15.3	18.3	+3.0	
固定資産	38.7	37.7	-1.0	
のれん	12.3	11.0	-1.3	② のれん残高は減少 連結子会社ののれんの償却が進展
その他	26.4	26.7	+0.3	
総資産	166.3	168.6	+2.3	
流動負債	58.7	61.9	+3.2	
買掛金	12.3	16.9	+4.6	
短期借入金※	16.3	15.8	-0.5	③ 未払い金や借入金が減少 未払法人税・消費税等が減少したほか、短期及び長期借入金を返済
その他	30.1	29.2	-0.9	
固定負債	36.8	32.1	-4.7	
長期借入金	33.5	28.5	-5.0	③
その他	3.3	3.7	+0.4	
純資産	70.8	74.5	+3.7	④ 自己資本比率は44.2% 前期末比で小幅上昇、健全な水準を確保
自己資本比率	42.6%	44.2%	+1.6pt	④

※一年以内返済の長期借入金含む

(億円)	24/6期 上期	25/6期 上期	増減額
営業キャッシュフロー	-2.8	3.8	+6.6
税引き前純利益	8.8	12.9	+4.1
減価償却費・のれん償却額	2.6	3.4	+0.8
売上債権の増減額	-15.2	-9.2	+6.0
法人税等の支払額	-5.9	-5.5	+0.4
その他	7.0	2.2	-4.8
投資キャッシュフロー	-2.1	-2.3	-0.2
財務キャッシュフロー	-6.5	-10.3	-3.8
短期借入金純増減額	0.2	0.6	+0.5
長期借入の純増減額	-5.0	-6.0	-1.0
その他	-1.7	-5.0	-3.3
現金同等物期末残高	53.2	64.8	+11.6

① 税引前純利益が増加

② 現預金水準の堅持
前年同期末比では、現預金同等物残高は増加

本資料に関するご注意

本資料は、業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘するものではありません。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性がありますのでご了承ください。

本資料に関するお問い合わせ先

株式会社 クロス・マーケティンググループ IR室
Mail : ir@cm-group.co.jp

Cross Marketing Group Inc.
<https://www.cm-group.co.jp>